

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	時津町立時津小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	3	3	3	2	19	26
児童数	96	77	87	87	87	91	6	531	

研究の概要

1. 研究主題

わかる, できる, 生かせる算数科の学習指導をめざして ~個に応じた指導法や教材の工夫を通して~
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 過去の本校の研究(算数科を研究)を生かしながら, 児童の学力の向上を目指すことができるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じた指導法(ティームティーチング・均等割少数指導・習熟度別少数指導の実践)や教材の工夫を通して基礎・基本の定着を図る。 研究の見通し(仮説) 平成15年度...研究内容及び方法の設定。検証授業の実践。 平成16年度...前年度の課題の解決と研究のまとめ。 研究仮説...算数科において, 少数指導法を取り入れ, 問題解決の学習や習熟を図る学習を仕組んでいけば, わかって, できて, 生かしていける子どもが育ち, 基礎・基本の確実な定着が図れるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導を行うに当たっての指導体制について ・学習指導と生活指導のかかわりが特に必要な低学年においては, 学級単位で担任と算数専科がティームティーチングを行い, その中で課題別少数指導や習熟度別少数指導を行う。 ・習熟度に比較的差の少ない中学年では, 3学級を4つのグループに均等に分けて, 担任3人と算数専科で指導していく。 ・高学年では単元の始めから, 子どもの選択による習熟度別少数編成のコース別学習に取り組む。 発展的な学習, 補充的な学習について ・単元の終末段階で「発展・習熟の学習」を設定し, ここでさらに子どもの実態に応じた学習を進めることが出来るように, 教材や指導法を工夫する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 平成15年度と同様 研究の見通し 平成15年度と同様 研究の内容・方法 平成15年度と同様であるが, 平成15年度の研究課題解決に焦点を絞</p>
--------	--

って研究する。

### (3) 研究推進体制

研究組織

校長 - 教頭 - 研究推進委員会 - 全体会

- 低学年部会
- 中学年部会
- 高学年部会

研究の基本的な方針は、毎月第3週の火曜日に行われる研究推進委員会で検討され全体会で決定される。決定された方針は、学年部でさらに具体化され実践される。

算数専科のかかわり  
2名の算数専科は、原則として全学級の指導にかかわる。  
1名は主として1, 2, 3年生を、他の1名は4, 5, 6年生を中心にかかわる。  
1, 2年生の場合、算数専科2名と担任との3名で指導する時間を設ける。

時間割の工夫  
3年生以上の学年では、3学級を4グループに再編成して指導するために、同学年の算数の時間を同一時間に位置づける。

スキル学習の実施  
14:00 ~ 14:10 をスキル学習の時間として毎日の日課に位置づける。  
月、水、金曜日は計算のスキル学習を行う。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

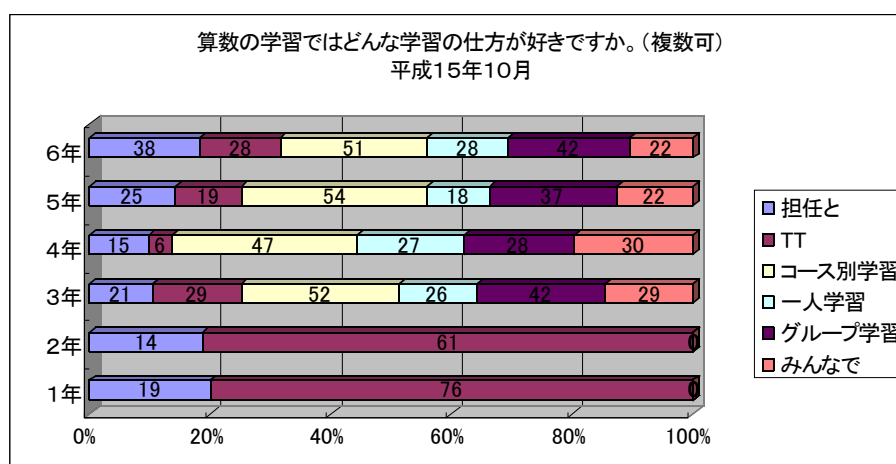
### 1. 研究成果

#### (1) 情意面から

アンケートの結果から児童の85%が算数が好きと答えている。本年度行った少人数指導によって、どの学年の子どもも、学習がわかる喜び、できる喜びを感じ、算数が楽しいという意識を持つことができた。

日々の授業を大切に行っていくことで、自力解決の中でねばり強く考える態度や、練り合いの中での話す・聞く力、スキル学習や習熟学習での集中力などが、子どもの身に付いてきた。

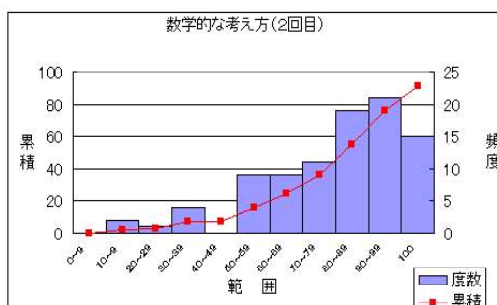
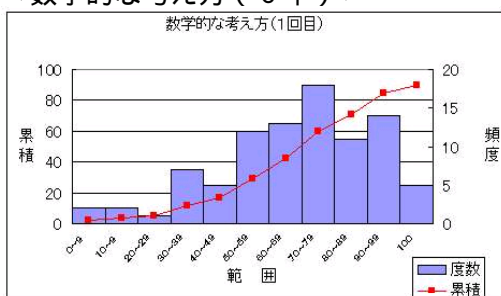
低学年では、T・Tの学習形態が身につく、T・Tの授業を楽しみにしていることが分かる。中学年では、コース別学習が好きと答えた割合が多い。これは教室や学習集団が変わることも楽しいと感じていることや、コース別学習が子どもたちの中に定着してきたことが理由として考えられる。高学年についても、コース別学習（習熟度別学習）が好きと答えた割合が多い。これは自分の力に合ったコースで、自分のペースで学習することができ、子どもたちにとって楽しく学ぶことができているからだと思われる。



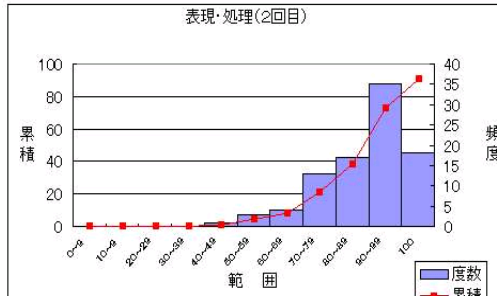
#### (2) 学力テストの変化から

各学年とも毎学期の初めに、自作の学力テストを利用して前学期の学習内容の定着度を調査している。テストは三つの観点（知識・理解、表現・処理、数学的な考え方）に従って作成している。下のグラフは、6年生の結果の一部をグラフ化したものである。1回目は1学期の内容を9月に実施、2回目は2学期の内容を1月に実施した。

## < 数学的な考え方 ( 6 年 ) >



## < 表現・処理 ( 6 年 ) >



数学的な考え方については、顕著ではないが1回目よりも2回目が全体的に得点の高い方に度数の偏りがみられる。表現・処理については、明らかに偏差が小さくなり、度数がかなり右に偏っている。これは、集団の習熟の程度のはらつきが小さくなったことや高得点が取れるようになってきていることを示している。

この結果の要因が子どもの学力の伸びによるものなのかテストの信頼性や妥当性の不足によるものなのかは明確ではない。しかし、日常的に子どもと接している担任としては、確かに子どもに力がついてきているという実感がある。今後も様々な方法で学力を客観的に見取る方法を研究していく必要があると感じている。

## 2. 今後の課題

### (1) 授業について

子どもに課題解決学習の力をつけるために、本当に疑問に感じるような、または解決したいと思うような課題を設定する。

学年内での打合せの時間が十分にとれていない。今後は効率のよい打合せの仕方や、放課後の時間の取り方などさらに工夫していく。

一応の評価の形は作ったが、指導に生かすための評価は十分ではない。個に応じながら次の指導に生かせるような評価の在り方を研究していく。

各学年の指導形態をおおよそ固定して進めてきたが、次年度は子どもの実態に合わせて、流動的により効果的な指導形態を考えていく。

「生かせる」という点については、生活に生かすこと、次の学習に生かすことの両面とも不十分であった。他教科等や日常生活の中に算数が生かせる場面を意識して取り入れたり、既習事項を次の学習に生かすという学び方を身につさせるための指導法を開発したりしなければならない。

「発展・習熟の学習」において、子どもの思考を深めたり、広げたりするための発展問題の研究をさらに進めていく。

### (2) スキル学習について

学年における問題の系統表を作成することで、フィードバックすべきところが明確になる。

現状のスキル学習は、日々継続し多くの問題を解くという形態は整ってきているが、子どもにとっては、ゴールが見えず達成感を感じる事が少ない。そこでやる気を起こさせ、楽しく取り組めるようなスキル学習をさらに工夫をしていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

- (1) 前学年の内容についての標準化された学力テストを4月に全校で行い、学力の定着度を見て今後の学習指導に生かしている。
- (2) 毎学期の学習内容について、3観点(知識・理解、表現・処理、数学的な考え方)で学力テストを自作し次の学期の初めに実施している。子ども一人一人の習熟の程度を見ると共に、時間を追って指導の成果を見ていく。
- (3) 市販のテストをもとに、全国平均点と比較したり、月ごとの点数の変化を調べたりして学力の変化を見ている。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究発表会の実施  
来年度は、開催案内を全県下に送付し参加を呼びかける。
- (2) 研究授業の公開  
各学年が行う研究授業を近隣の学校に公開する。
- (3) ホームページでの情報公開  
研究内容や成果をホームページで発信する

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無